

## 第2学年 音楽科学習指導案

学級 2年2組 (男子17名 女子18名 計35名)  
指導者 教諭 柿沢 香織

### 1 題材名 合唱表現の深まり ～合唱表現の工夫Ⅳ～

### 2 題材について

#### (1)教材観

本題材は、学習指導要領【第2学年および第3学年】2 内容、A 表現(1)のア「歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して歌うこと」 ウ「声部の役割と全体の響きとの関わりを理解して、表現を工夫しながら合わせて歌うこと」 【共通事項】(1)ア「音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成などの音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じること」 イ「音楽を形づくっている要素とそれらの働きを表す用語や記号などについて、音楽活動を通して理解すること」を中心に学習を進めるものである。

合唱コンクール課題曲については和声の美しさ、歌詞の内容、時代的背景、生徒の精神的発達等を考慮し、その年の生徒にあった楽曲を選曲している。今年度の2学年課題曲「はじまり」、はそれぞれの声部の役割がはっきりとしているとともに歌詞と強弱、速度等の音楽を形づくっている要素による曲想の変化がわかりやすい。また、音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら理解させやすい曲である。そして歌詞の内容を自己のイメージや生活と関わらせながら表現できる楽曲である。

#### (2)生徒観

生徒はこれまで合唱の学習を通し、皆で音楽を作り上げていく喜びや楽しさを体験してきている。「夢の世界を」では声部の役割を生かしながら、全体の響きに調和させて表現の工夫をすることを学習してきた。また、「You can Fly!」では歌詞の内容を味わうと共に、掛け合いの働きによる曲想の変化を理解しながら表現の工夫をすることを学習してきた。その結果、歌詞の意味を考えながら声部の役割を意識しつつ、よく響く美しい歌声で表現しようとする生徒が少しずつ増えている。しかし、技能や思考を伴う題材においては、個別の支援を必要とする生徒や授業への意欲を持続できない生徒もいる。また、歌詞の内容や声部の役割を理解はしているものの、それが音楽の諸要素とどう結びついているのかを理解したり、思いや意図と関わらせてイメージを豊かにしたりしながら自分たちの音楽表現を工夫するまでには至っていない。

#### (3)指導観

本題材では、それぞれの声部の役割をはっきりさせるとともに、歌詞と強弱、速度等の音楽を形づくっている要素による曲想の変化に気づかせたい。また、音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気と関連付けて、曲のよさや美しさを理解させていく学習を行いたい。例えば、「はじまり」は、テンポの変化はそれほど多くないが、そのかわり強弱による曲想の変化が多い。同じフォルテでも場面に合わせて音色を変えたり、メゾピアノやピアノでも印象的に、なおかつ主張のある芯のある声で歌ったりするなど、発声はもちろんのこと、音色・和声・リズム・旋律などの働きを理解しながら音楽の雰囲気、美しさ、豊かさを感じながらイメージを豊かにして表現する能力を伸ばしたい。

また、音楽を共有する方法として、仲間との学び合いを授業に位置付け、楽しみながらも合唱が美しく響きあった時の喜び等の感動場面を経験させ、一人ひとりが音楽の力を高めていけるような授業にしたい。そして、こうした活動を通し、様々な音楽を進んで味わおうとする態度や、その曲なりの魅力を感じ取る力を育て、一人ひとりの音楽観を広げるとともに様々な音楽表現の技能の向上を図りたい。

### 3 題材の目標

- (1) 歌詞の内容や旋律を手がかりに、テクスチュアや強弱等による曲想の変化に関心をもち、意欲的に表現活動に取り組む。(関心・意欲・態度)
- (2) 歌詞の内容や旋律を手がかりに、テクスチュアや強弱等による曲想の変化を感じ取り、思いや意図をもって音楽表現の工夫をすることができる。(音楽表現の創意工夫)
- (3) 歌詞の内容や旋律を手がかりに、テクスチュアや強弱等による曲想の変化を生かして表現をする技能を身に付ける。(音楽表現の技能)

### 4 指導計画 (全8時間・・・課題曲 4時間, 自由曲 4時間)

時間	●ねらい ○学習活動	評価方法等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 合唱コンクールに向けて、仲間との学び合いを通し楽しみながらも美しく響きあった時の喜び等の、感動場面を経験させることで、一人一人が音楽の力を高めていけることを目指す。</li> <li>○ 旋律の特徴や声部の役割を意識して自分のパートを歌う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観察法</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>● パート練習や合同練習を通して、歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して歌う。</li> <li>○ 歌詞の内容や曲想を味わい、曲のもつよさや美しさを感じ取りながら歌う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観察法</li> <li>・ 生徒の発言内容</li> <li>・ パート練習の様子、練習内容と演奏内容による確認</li> </ul>
3 本時 ・ 4 ・ 5 ・ 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 歌詞の内容や旋律を手がかりに、テクスチュアや強弱を中心に、音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受する。</li> <li>● 声部の役割と全体の響きとの関わりを理解して、表現を工夫しながら合わせて歌う。</li> <li>● 歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して歌う。</li> <li>○ 音楽を形づくっている要素の働きによる曲想の変化を感じ取って、思いや意図をもって言葉や音楽で表現する。</li> <li>○ 声部の役割と全体の響きとの関わりを理解し、自己のイメージや生活と関わらせ、心情や情景を想像しながら表現を工夫して歌う。</li> <li>○ 音楽の雰囲気、美しさ、豊かさを感じながら表現を工夫して合唱する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観察法</li> <li>・ 生徒の発言内容</li> <li>・ 演奏発表</li> <li>・ 練習の様子、練習内容と演奏内容による確認</li> </ul>
7 ・ 8	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 音楽を形づくっている要素の働きを感じ取り、そのよさや美しさを理解しながら表現を工夫する。</li> <li>○ 全体で音楽表現の工夫を考え、合唱する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観察法</li> <li>・ 生徒の発言内容</li> <li>・ 演奏発表</li> </ul>

### 5 本時の目標と評価規準

#### (1) 目標

- ・ テクスチュアと歌詞、および強弱等の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受することに関心をもち、意欲的に表現活動に取り組む。(関心・意欲・態度)
- ・ テクスチュアと歌詞、および強弱等の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受し、思いや意図をもって音楽表現の工夫をすることができる。(音楽表現の創意工夫)
- ・ テクスチュアと歌詞、および強弱等の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受することを生かして表現をする技能を身に付ける。(音楽表現の技能)

#### (2) 評価規準 B

- ・ テクスチュアによる曲想の変化を、音楽の雰囲気やイメージを感じながら、音楽表現に生かそうと取り組んでいる。(関心・意欲・態度)
- ・ テクスチュアによる曲想の変化を、雰囲気やイメージを感じながら、自分なりの思いや意図を言葉や音楽表現で発表している。(音楽表現の創意工夫)

・練習や演奏発表の際に、テクスチャによる曲想の変化を、雰囲気やイメージを感じながら、音楽表現に生かして、気をつけて一通り演奏している。(音楽表現の技能)

## 6 本時における研究の重点について

### (1)課題設定の工夫

楽曲の構成から、生徒に「なぜ」と思わせるような意欲や探究心の向上につながる課題設定にする。

### (2)関わり合いの工夫

小グループを意図的に構成し、話し合いが円滑に進むようにする。分かりやすく認識しやすいと思われる箇所を設定し、歌詞と旋律の関係に着目させ、音楽表現の工夫を考えさせる。

### (3)まとめの工夫

まとめの合唱だけでなく、板書をもとに視覚的にも課題解決の過程とまとめを把握できるようにする。

## 7 本時の展開

時間	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
導 入  15分	1 あいさつ 2 アルトリコーダー練習 「My Herat will go on」を演奏する。 3 「はじまり」を合唱する 4 3度と2度のハーモニーの違いを感じ取る。 ・2度のハーモニーの演奏とイメージの発表をする 5 本時の学習課題を把握する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までの確認や指使いの確認をする。</li> <li>・楽しみながら演奏する雰囲気を大切にする</li> </ul> <p>○これまでの学習を想起させ、十分な発声をさせるとともに、心と体のフォーミングアップを図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音程が取れていない所 → Check</li> </ul> <p>○パート毎に取り上げ演奏させる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7, 8小節目やDの部分など</li> <li>・3度のハーモニーとの比較をし、音と音がぶつかっていることを認識させる</li> </ul>
	旋律と歌詞の内容を手がかりに、独特の響きを使った意図を考え、イメージをもって合唱の表現を工夫しよう。	<p>○全員に課題をつかませる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分かりやすく端的に説明を行う</li> </ul>
展 開  30分	6 なぜ2度のハーモニーを多用したのか小グループ毎に考え発表する。 7 他の2度のハーモニーの部分を小グループで見つける。 8 本時で学び合った内容を合唱で表現する。	<p>○楽曲のもつ独特の雰囲気から</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりの考えをもとにグループで話し合い、全体の考えに広げていけるようにする。</li> <li>・旋律と歌詞の内容から、テクスチャや強弱との関係に気づかせる。</li> </ul> <p>○同じ和声をもつ箇所に気づかせ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉の反復と旋律の盛り上がりについて気づかせる。</li> <li>・強弱との関係にも着目させる。</li> </ul>
	終末 5分	9 まとめ